

第 21 回：風水戦争(獅子 vs 鏡)

むかし香港に出張し、邦銀の香港支店に友人を訪ねた時のこと、入り口の左右に牙を剥いた恐ろしげな獅子像が置いてあるのを見て驚いた。さすが「東洋の真珠」と謳われるだけあってエキゾチックでオリエンタルな雰囲気や装飾を大事にしているのかと感心したが、よく聞いてみるとこれ「魔除け」だという。金融工学の最先端を走る大手銀行が迷信を気にするとは意外であったが、ナショナルスタッフ(つまり香港人)の要請でやむなく置いているのだという。この話には続きがあり、その銀行の対面、つまり廊下を挟んで反対側には国際的監査法人が入居しており、銀行の二頭の獅子がその事務所を睨んでいるものだから、監査法人の受付嬢はデスクの両脇に鏡を二面置いて、獅子の咆哮を跳ね返しているのだという。そんなつまらぬことばかりしているものだから、バンカーも会計士も金融危機の中でもみくちやにされてしまうのだ。

上海の大学生が深夜ガールフレンドのマンションでデートの最中、突然チャイムが鳴り、彼女の母親が帰ってきた。

「大変よ、明日帰ってくるはずのお母さんが急に帰ってきたみたい。いますぐ窓から逃げて！」

「無理だ！13階じゃないか！」

「あなた、なに言ってるの！縁起を担いでいる場合じゃないでしょ！」

という事例があるかどうか不詳だが、中国人の縁起の担ぎ方は日本の比ではない。香港でも上海でも高層建築には風水の仕掛けが施されており、屋上がパイナップルのような形のビル、外装が金ピカでナイフのエッジのような形のビル等は全て風水占いが織り込まれているのだと言う。そこに入居する会社も、入口に丸い金魚鉢や獅子像などの風水グッズを安置して企業防衛を図っているところが多いと聞く。

東京オリンピック(1964年)の開催日10月10日は気象庁の統計データをもとに、晴れの多いこの時期が決められたというが、昨年8月8日午後8時に開催された北京オリンピックは中国人のラッキーナンバーである「末広がりの八」を唯一の根拠に決められたようだ。科学精神を重んじる日本人と風水迷信を日常の糧とする中国人の違いは明らかであると断定したら中国渡航ビザが打ち切られかねないので冗談に止めておくが、面白い対比ではある。

中国人にとって「八」に劣らぬラッキーナンバーが「九」である。漢字の「九」と「永久」、「幾久しい」の「久」が同じ発音(jiu)であるところからきているようだ。だから北京の故宮(紫禁城)の部屋数も999室だと言う説がある。

今年は2009年、中国人にとって縁起の良い「九」を背負った年であり、世界各国が景気後退に懊悩呻吟するなか、今年中国にはぜひ縁起の良い年になってもらいたいものである。ところで9のつく年を歴史から拾ってみると、このような結果となった。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1919年	五四運動(日中戦争のきっかけの一つとなった学生運動)
1929年	世界大恐慌(暗黒の木曜日)
1939年	第二次世界大戦勃発(ドイツ、ポーランドに侵攻)
1949年	中華人民共和国建国(国共内戦終了)
1959年	チベット動乱(ダライラマ亡命)
1969年	中ソ国境紛争(ウスリー川ダマンスキー島の軍事衝突)
1979年	中越戦争(カンボジアを巡り中国、ベトナムに侵攻)
1989年	天安門事件(筆者は不幸なことに現地で目撃する羽目になった)
1999年	台湾大地震(犠牲者約 2400 人)

このリストだけから見ると、「9」の年は必ずしも縁起のよい年とは限らないようだ。筆者はこのような事例やジンクスには全く興味がないが、日本には中国を批判あるいは悲観する人が多く、わざわざ歴史の倉庫からこんな事例を引っ張り出してきて、だから今年の中国は諸事多難であると警鐘を鳴らしている。

世界的金融危機の中で、「流動性の危機」が「資本金不足の危機」に、更には「実体経済の危機」にステップアップしつつあるなかで、中国が受ける影響は決して小さくはない。輸出主導型経済を内需拡大型経済にうまく移行させないと雇用不安が社会の安定を損ねる可能性がある。そうでなくても年間 10 万件を超えるデモや騒動が発生している国である。この点について日本のマスコミや学者筋には悲観的見方が強い。中国は玉石混交のダンゴ状態で成長している国である。中国の悪い点だけ繋ぎ合わせると良い結論が出る訳がない。それに悲観的な論陣を張る方が思慮深く見え、予想が外れた時のリスク回避上得策だというセコイ風潮もある。

しかし、世界のトップランカーの発言は違う。たとえば地政学リスクの専門家であるイアン・ブレマー氏は、同氏が主宰するユーラシアグループが発表した「世界のトップリスク地域(=ワースト 10)」の中に中国を含めなかった理由として、中国は過去 30 年で平均 10%という高度成長を遂げ、その結果莫大な政治資本(political capital)を築き上げた。この功労者は中国政府であり、政府は威信を保ち、国民は自信に満ちている、という主旨の発言をしている。同氏の論文を逐一紹介するスペースはないが、同氏は中国が抱える難題の重さを十分に理解したうえで少なくとも 2009 年の中国は充分持ちこたえらるだろうと結論付けている。

因みに同氏の発表したワースト 10 は、国名とは限らず「南アジア地域」といった地域名も含まれており、最上位にランクされている場所は「Congress=議会」つまりワシントンであった。(了)

平成 21 年 3 月 17 日

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 121 号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

①株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2075% (税込み) (約定代金が 260,869 円以下の場合、3,150 円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.20% (税込み) (約定代金が 2,625 円に満たない場合は、2,625 円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。